

No.23

2006.3.30

いしかわの遺跡

はにわを作ろう!!



平成17年9月に行われた古代体験学習講座「はにわづくり」の作品です。その形や表情から魅力的で親しみ深いはにわですが、古墳時代の儀式や生活の様子を知ることのできる貴重な考古資料でもあります。

さて、好評を得ている「はにわづくり」が平成18年から古代体験ひろば体験工房の随時体験メニューに加わることになりました。まずは夏休み期間中毎日実施する予定です。当時の様子を思い浮かべながらはにわを作ってみてはいかがでしょうか？

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成17年度発掘調査から

白江梯川遺跡



遺跡遠景(西から)



河跡の土器群出土状況(古墳時代)



水田跡(弥生時代～古墳時代)



出土した銅鍔(弥生時代)

白江梯川遺跡は小松市白江町地内に所在し、梯川の中流から下流にさしかかる左岸に位置します。梯川改修に伴い調査が行われました。昭和57(1982)年に最初の調査が行われてから、今回で12回目の調査になります。これまでの調査で、弥生時代中期から古墳時代後期、平安時代中頃から近世に断続的に営まれた複合集落跡であることが確認されています。

今回の調査では、弥生時代、古墳時代、中世、近世の遺構・遺物を確認しました。

弥生時代から古墳時代では、畔で区切られた大きさが約2m×4mの小区画水田を確認しました。水田跡は昨年度の調査区でも見つかり、その広がりを確認することができました。また弥生時代の銅鍔や翡翠の勾玉も出土しています。出土した銅鍔は、長さ約4cmで残りが非常によく、貴重な発見となりました。

古墳時代では河跡を確認し、この河跡からは完形の土器が多数出土しました。これらの土器は祭祀に使用した後、投棄されたものと考えられます。

中世では総柱建物跡や井戸、近世では溝などを確認し、溝からは多数の木製品や陶磁器が出土しました。

ニッ梨グミノキバラ遺跡

ニッ梨グミノキバラ遺跡は、低地に面した標高20m～30mの低丘陵地帯に立地しています。小松市ニッ梨町周辺は、須恵器や土師器の窯跡が多いことで県内でも有名な場所です。今回の調査では、土器の材料となる粘土を採ったあと(粘土採掘坑)や、土器作りの燃料となる炭を焼くための穴(製炭土坑)などが見つかりました。

粘土採掘坑は10m×9mの範囲に密集して作られていました。土層を観察した結果、一度下方向に掘削した後、横方向に掘り広げて粘土を採っていたことがわかりました。地盤は灰白色のサラサラした質感の粘土層で、採掘坑は全てこの地層まで掘り抜かれていました。採掘坑の中には井戸として転用されたものもありました。

製炭土坑の底付近に埋まった土は、炭や炭化物を含んでいました。壁は良く焼けていましたが、底の方は焼けていませんでした。あまり火力を強くしすぎると、炭ができなくなってしまう恐れがあったからだと考えられます。

遺跡からは平安時代の須恵器や土師器がたくさん出土しました。また、窯道具も多く見つっています。このことは調査区外の近辺に、窯が存在していたことを物語っています。



遺跡全景



粘土採掘坑



井戸に転用された粘土採掘坑



製炭土坑

平成17年度 親と子の発掘体験教室

今年も親と子の発掘体験教室が開催されました。会場は七尾市古府・国分遺跡^{ふるこ くにぶ}(7月30日)、津幡町加茂遺跡^{かも}(8月6日)です。参加者の皆さんには、発掘調査のおもしろさと大変さを味わっていただけたかなと思っています。その様子をすこし紹介します。



今年の調査は...と現場の説明

加茂遺跡



遺跡はこんな風に埋まっています。

古府・国分遺跡



大きな建物跡が見つかりました。

古府・国分遺跡



テレビの取材もありました。

加茂遺跡



発掘調査の諸注意

古府・国分遺跡



暑い中がんばりました。

加茂遺跡



竹べらでだいじに掘っています。

加茂遺跡



土器が見つかったよ。

古府・国分遺跡



いっぱい見つかったかな。

古府・国分遺跡



洗った土器の説明

古府・国分遺跡



こっちは外で洗ってます。

加茂遺跡



ここには塔が建っていました。

古府・国分遺跡 能登国分寺見学会

第7回古代体験まつり

今年は10月1日(土)・2日(日)に行いました。2日目は雨模様で、一部のメニューが中止となったり、コーナーの位置が変更になったりしましたが、約960人の方に参加いただきました。茅葺き体験や、あな窯焼成の見学などこれまでになかったコーナーもあり、多くの方に古代人の「わざ」と「ちえ」を感じてもらえたと思っています。そのときの様子を紹介します。



オープニングの火おこし。みんな貫頭衣が似あっています。



かんばって優勝するぞ。火おこしレース。



あな窯の火。学習講座のはにわを焼いています。



ゆらめくオキ。そろそろ焼きあがり。



はたお機を織るときは、こうやってとんとんするんだよ。



何が見えるんだろう。



かやぶ茅葺き体験。うまくひもが結べたかな？



まいぶんクイズ。ずいぶん人数がしぼられました。



だっこく脱穀体験。親子でとんとん。うまきもみが落ちるかな。



ゆうしょうしゃはだれでしょう？

平成17年度 いしかわの発掘展 中世陶磁紀行

平成17年7月22日(金)~8月31日(木)にかけ、埋文センターで、「いしかわの発掘展 中世陶磁紀行」が開催されました。中世には各地で様々な焼物が生産され、これらは海運の発達により、各地の港町や市場に送られ、銭で売買が行われました。県内でも、珠洲焼や加賀焼が生産され、各地に運ばれ使用されていたようです。

今回は、遺跡から出土した珠洲焼と加賀焼を中心とし、約250点の遺物を展示して、中世陶磁器の生産・流通・消費の様子を紹介しました。



平成17年度 話題の遺跡講座

平成17年11月27日(日)に石川県立生涯学習センター3階大会議室において、話題の遺跡講座が開催されました。今回は「出土品から探る縄文時代の精神世界」と題して、文化庁主任文化財調査官の土肥孝氏に講演していただきました。当日は約80名の方々に参加いただきました。

まず、当センター西野秀和調査第2課長が「北陸の縄文世界」と題して、石川の環状木柱列を中心とした報告を行いました。

土肥氏の講演では、縄文時代の居住形態や土器の形態の変化について述べ、そこから縄文社会の通過儀礼がやがて祭祀へと変化していったと説明されました。



平成17年度 発掘速報会

平成18年2月26日(日)石川県立生涯学習センター3階大会議室において、発掘速報会が開催されました。まず、県内の遺跡発掘調査の概要報告が行われ、続いて6遺跡の発表が行われました。当日は約180名の方々にご参加いただきました。薬師堂遺跡(金沢市)では弥生時代の方形周溝墓と木棺墓が、三日市A遺跡(野々市町)では古代北陸道とみられる道路遺構や同時期の建物群が、相木ナカニシ遺跡(白山市)では奈良~平安時代の竪穴式住居と掘立柱建物が、飯川谷製鉄遺跡(輪島市)では中世の製鉄炉跡と排滓場や炭窯が、七尾城跡(七尾市)では戦国時代の城下町を区画するような溝や道路跡が、金沢城跡(金沢市)では本丸西側で初期の堀と石垣が、それぞれ確認されたと発表がありました。



収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から選りすぐりの資料をご紹介します。今回のテーマは「縄文時代」です。

収蔵品 5 こっかくき 骨角器 みびき 七尾市三引遺跡

動物の骨や角を加工した道具で、縄文時代前期の三引遺跡では主に漁撈具のヤス状刺突具、釣針、装身具などが出土しています。写真左は鹿角製の釣針で、全長7.2cm、幅4.6cm以上と非常に大きなものです。大型のスズキなどを釣ったものでしょうか。

また、写真中央はシカの四肢骨製垂飾です。スプーン状で、先端に紐をくくり付けたようです。右はイノシシの歯牙製垂飾です。強い獣の歯牙を身につけ、お守りとしたのかもしれませんが。



収蔵品 6 ゆうこうきゅうじょうどせいひん 有孔球状土製品

正円の穴がまっすぐに貫通する紡錘形や円筒形、球形の土製品を、有孔球状土製品と呼んでいます。富山県東部と新潟県西部を中心とする北陸北部地域と、東北から関東に至る太平洋岸地域の縄文時代後・晩期の遺跡から出土し、石川県は分布の最西端にあたります。文様がとても優美な一品ですが用途は不明で、装身具、紡錘車、あるいは硬玉を穿孔する時の弾み車など諸説があります。

金沢市米泉遺跡・加賀市横北遺跡



訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 九谷磁器窯跡

加賀市山中温泉九谷町に所在する九谷磁器窯跡は、山中温泉街から大聖寺川沿いに約13km遡ったところにあります。1号窯、2号窯、吉田屋窯の3基からなり、昭和34年から数回にわたって窯跡や物原などの発掘調査が行われました。1号窯跡は、残存長33m、推定長35mを測り、2号窯跡は全長13mを測るいずれも17世紀代に造られた連房式登窯で、磁器生産が行われていました。吉田屋窯跡は焚口部分が既に失われていましたが、残存長14.35m、推定長16mを測る19世紀に造られた窯です。昭和54年に九谷1・2号窯と吉田屋窯が「九谷磁器窯跡」として国史跡に指定されました。現在は保存のため埋め戻されており、斜面にわずかながら3基の窯跡の窪地がみられます。

大聖寺川を挟んで窯跡群の対岸に所在する九谷A遺跡は、平成6年度から平成15年度にかけて、九谷ダム建設に伴い発掘調査が行われました。その結果、1・2号窯の磁器生産に関わる工房域であることが判明しました。平成17年3月には、加賀市山代温泉にある再興九谷窯を含めて新たに史跡に追加指定されました。再興九谷窯は、九谷焼窯跡展示館を併設しており、現存最古の九谷焼窯跡を保存・展示しています。



1号窯跡の完掘(煙道部分から)



創始者「後藤才次郎」の碑

九谷磁器窯跡	
交通	山中温泉街より、県民の森方面に車で約20分。
所在地	加賀市山中温泉九谷町
お問い合わせ	加賀市教育委員会教育総務課 電話 0761 - 72 - 7970

九谷焼窯跡展示館	
開館	午前9時～午後5時(祝日を除く火曜日・12月29日～1月1日は休館)
入館料	310円(75歳以上150円/20名以上の団体260円/高校生以下・障害者無料)
交通	JR加賀温泉駅より車で10分 山代温泉東口バス停留所から徒歩5分
住所	加賀市山代温泉101 - 9
お問い合わせ	電話 0761 - 77 - 0020